



最も遺跡の数が多い奈良・平安時代

常陸大宮市は、久慈川、玉川、那珂川、緒川などの川を望む台地の上や、川沿いの小高い土地の上など、皆さんの住んでいる足もとに、数多くの奈良・平安時代の村々が埋もれていることが知られています。その数は、大宮地区114遺跡、山方地区4遺跡、美和地区8遺跡、緒川地区1遺跡、御前山地区72遺跡で、全体では199遺跡となります。奈良・平安時代は、常陸大宮市で最も遺跡の数が増える時代なのです。

常陸大宮市の奈良・平安時代の村について考えていくためには、発掘調査された遺跡の建物の数やその配置が、年代ごとにどのように変化しているのか（これを「集落変遷」といいます。）を、整理しておかなければなりません。

年代は出土した土器から決めますので、土器の変化とその年代を事前に解明しておく必要があります。そして、それぞれの集落遺跡について、集落変遷が明らかになったら、次はそれぞれの集落の各時期ごとに、建物のように使われていた用具類について、詳しく調べる作業が待っています。

このように、ある地域の古代集落跡の分析をおこなうには、長い年月がかかる地味な作業を続けなくてはならないのです。



▲北原遺跡全景



考古部会専門調査員 佐々木義則
(ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社職員)

常陸大宮市史では、そうした長い作業は始まったばかりですが、すでに面白そうなことがわかりはじめています。多くの住居跡が発掘調査された、北原遺跡（道の駅常陸大宮～かわプラザ～のところ）や上ノ宿遺跡（JR常陸大宮駅の東方）などの久慈川流域の遺跡では、どうやら平安時代のはじめ頃に、集落の規模が大きくなるようなのです。

もしかするとその時期に水田や溝などが整備されて、人々が集まってきたのかもしれません。理由はこれから考えていきますが、検討作業が進むにつれて、ほかにも知りたいことは次々と出てくることでしょう。

常陸大宮市で、最も遺跡が増える奈良・平安時代の資料分析をとおして、人々の暮らしの地域性が明らかになればと思っています。こうした身近な歴史を知ることが、郷土の誇りにもつながっていくものと考えています。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）



探しています！

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。

お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。